

重症心身障がい児者及び 医療的ケア児者に係る実態調査について

【要旨】

重症心身障がい児（者）を守る会との打ち合わせを踏まえ、サンプリング調査（40名）を中止し、重症心身障がい児者及び医療的ケア児者の全数を把握する実態調査を実施するもの。

1 重症心身障がい児・者に係るアンケート調査について(当初案)

(1) 調査目的

アンケート調査を実施し、今後の支援等に関する基礎資料とするもの。

(2) 調査対象者

「療育手帳（A判定）と身体障害者手帳（1、2級で「肢体不自由」による判定）」の両方をお持ちの方（かつ医療的ケアを伴わない）

(3) 調査方法

アンケート用紙 約40部配布（サンプリング調査）

岩手県重症心身障害児（者）を守る会及び県立特別支援学校の協力の下実施。

2 岩手県重症心身障害児（者）を守る会からの御意見

- 40名のサンプリング調査では回答に偏りが出てしまい、正しくニーズを把握することができない。
- 調査対象も「医療的ケアを伴わない」に限定せず、重症心身障がい児者**全体の調査**とすべき。
- 依頼方法として、特別支援学校と守る会への依頼とすると、**未就学児への調査が漏れてしまう**のではないかと。
- 調査の時期は急ぐ必要はないと思うので、調査方法等について再検討してほしい。

3 検討すべきポイントの整理

(1) 検討すべきポイント

【ポイント①】

今回明らかにすべきなのは何か
→ 対象者の実数 or ニーズ

【ポイント②】

対象を誰に設定すべきか
→ 重症心身障がい児者 and/or 医療的ケア児者

【ポイント③】

調査方法として適切なものは何か
→ どの機関に依頼するか

(2) 各ポイントの検討

【ポイント①】の検討

対象者が特定できないままニーズ調査(サンプリング調査)を実施した場合、回答結果に偏りが生じる可能性があるため、**先に実数調査をする必要があるのではないか。**

【ポイント②】の検討

重症心身障がい児者及び医療的ケア児者の実態（総数や状態等）が不明であることから、**全ての対象者を把握する必要**があるのではないか。

【ポイント③】の検討

正確性を担保するため、一部の機関だけに依頼するのではなく、これまでの実態調査を参考に、**医療機関等(約1300機関)に協力を仰ぎ実施**する必要があるのではないか。

4 ポイントを踏まえた対応方向

当初は、重症心身障がい児者への支援を考慮する必要性から、サンプリング調査の先行実施を検討したが、対象者の総数が不明確な状況のまま実施すると、回答結果に偏りが生じる可能性が懸念。

直近の調査は「令和4年度医療的ケア児に係る実態調査」であり、重症心身障がい児者についての調査は長らく行われおらず、正確な現状と課題の把握ができていない状況が続いている。

→ **サンプリング調査の実施は見送り、重症心身障がい児者及び医療的ケア児者の全数を把握する実態調査を実施**

5 重症心身障がい児・者及び医療的ケア児・者実態調査(案)

(1) 実施の目的

重症心身障がい児者及び医療的ケア児者の実態把握を行い、今後の入所や在宅での支援を検討するための基礎資料とする。

(2) 調査時期

令和7年6月（調査時点：令和7年4月1日）

(3) 調査依頼機関

市町村、病院、障がい児が利用可能な施設・事業所、特別支援学校

(4) 調査対象者

各機関で把握している重症心身障がい児者及び医療的ケア児者（者については、18歳未満で発症した者）

(5) 対象者の定義

【重症心身障がい児者】

① 療育手帳及び身体障害者手帳所持

② ①と同程度（大島分類 1 ～ 4 ）

※ 周辺児者（大島分類 5 ～ 9 ） も併せて調査

【医療的ケア児者】

医療的ケア15項目該当

(6) 調査様式

【医療機関用】

【施設・事業所用】

【特別支援学校用】

医療機関名	
-------	--

施設・事業所名	
施設・事業所種別 (該当に○印)	医療 介護 児童 障がい その他 ()

学校名	
-----	--

【 共 通 】

[illegible]